

音楽部会

田川 聖旨

1. 部会の構成・運営と主な活動

本部会は、国立大学の附属学校における音楽教育に関する研究を活発にし、わが国音楽教育の向上発展に資することを目的とした部会である。これまでの主な活動としては「音楽教育に関する調査・研究、研究大会等の開催」「各学校における研究物等の交換」「会報等の発行」等を行ってきた。毎年春先から、全国の附属学校の音楽担当教員へ FAX 等で部会への参加登録（または登録更新）をお願いすると共に、研究大会の開催案内等を行い、附属学校教員同士の情報交流の場を提供している。ちなみに、本年度は全国で38校がこの部会に登録をしている。（教大協には本部会とは別に「大学音楽部会」もあるが、本部会は基本的に「附属学校教員を中心とした」組織であることを申し添えておきたい。）

昨今、最もメインとしている活動は、毎年夏に開催している研究大会の開催であろう。近年、東京都以外の道府県では、附属学校教員がわずか数年で附属を離れて異動してしまうことが多く、本部会の舵取り役を担う理事職は、比較的移動が少ない東京都下の附属学校教員内でそのほとんどを分担させていただいている。（一部の理事職は関西地区にも依頼。）東京地区の各校理事教員は、4グループに分かれて事務局・会計部・記録部・庶務部の各業務を分担し、2年ごとに役割を交代するシステムで運営している。理事の最も大きな役割としては、上述の研究大会開催のために、前年度の時点で会場校を引き受けてくださることになった学校と協力して、そのプランニングと運営・実務の中心となることである。当該年度の研究大会の開催内容については、毎年4月下旬に行われる東京地区理事会に集まったメンバーで大枠の方向性を作成・確認し、その内容について関西地区も含めた全ての理事へ連絡・承認いただいた上で実施へと進めていくシステムを取っている。

例年、研究大会は2日間の日程で開催しており、発表校による授業実践報告や研究授業、実演家を招いてのワークショップ、文部科学省や大学の先生等による講演など、多彩なプログラムを網羅してきた。ちなみに昨年度は筑波大学附属小学校にて、今年度は大阪教育大学附属天王寺小学校で開催した。（今年度は会場校の都合により、1日のみの開催。来年度は東京地区での2日間の開催を予定。）

なお、本部会は10数年前までは、教大協の下部組織であると同時に、「全附連（全国国立大学附属学校連盟）」の下部組織としても機能していたが、現在では教大協の下部組織としてのみ活動している。附属学校教員が主宰する教大協内の部会は、とても少ない現状（→他には家庭科部会と養護部会のみ）なだけに、その存在意義はとても重要なものと認識している。

2. 本年度の活動より ～音楽部会研究大会（大阪大会）概要報告

- I. テーマ 「子どもの内面を重視した音楽科授業」～新学習指導要領を見据えて
- II. 実施日 平成30年7月31日（火）
- III. 会場 大阪教育大学附属天王寺小学校

IV. 内容

(1) 総会

平成29年度会計報告・平成30年度予算案審議
参加各校からのお知らせ その他

(2) 実践・研究発表

- ・「主体的実践力・協働的実践力・創造的実践力を育む『生成の原理』による音楽授業」
大阪教育大学附属平野小学校 藤本佳子氏

研究主題：未来を『そうぞう』する子ども

→『未来そうぞう科』文部科学省開発指定

実践事例「一弦箱の音色を生かして音楽をつくろう」6年生

- ・「自己の演奏表現や味わいを『省みる』授業」
大阪教育大学附属天王寺小学校 上野絢音氏

(3) 実践発表・ワークショップ

- ・「遊びで育まれる資質・能力を考える～リコーダーで遊ぼう」
東京学芸大学附属竹早小学校 徳富健治氏

- ・上記実践発表を受けたワークショップ
「音楽の授業における子どもの“困り感”にアプローチする」
東京学芸大学附属特別支援学校

岡本有未氏・高橋絢子氏・長谷川靖子氏

(4) 講演：「音楽科の学習を側面から支えるドラマ教育の手法」

講師：大阪教育大学特任教授 田中龍三 先生

(5) 閉会行事（写真撮影・諸連絡）

(6) 懇親会・情報交換会（→ 本年度は都合により中止）

3. 今後への展望

毎年夏休み前半に開催することの多い研究大会だが、今のところ大会実施の詳細については、（新年度理事の構成員が確定した後の4月以降の決定とならざるを得ないこともあり、）夏の大会までに十分な時間も無いことから、現状では毎年の大会開催内容について十分な広報活動まで手が回っていない実情がある。附属学校以外の教員・学生等の参加も毎回呼びかけてはいるものの、まだまだ世間一般に充分認知されているとは言い難い。

今後、せつかくの本部会からの研究情報発信を無駄にしないためにも、一層の広報活動の充実が期待されるであろう。ただ、本部会のホームページは存在するものの、ごく一部教員の手弁当による運営によって辛うじて支えられており、教大協本部からの補助金も急激な減少傾向にあり、附属学校の人手不足も公立以上に深刻となっている今、今後部会に関わるそれなりの労力や予算をどうやって確保していくかが大きな課題となっているように感じる。国立大学附属学校の存在意義が問われている今だからこそ、その意義を全国に発信していける貴重な場として、今後も十分に活用し、情報を発信していけたらと考えている。

（東京学芸大学附属小金井中学校 主幹教諭）